

実例からみる歯科治療でのトラブル —なぜ起こったのか、どう対処するか—

【日時】 9月26日(土) 17時~19時

【会場】 久留米シティプラザ4階・中会議室
(久留米市六ツ門8-1 TEL:0942-36-3000)

【講師】 楠川 仁悟 先生

久留米大学医学部歯科口腔医療センター教授



口の機能は、何より「食べる」ことですが、それ以外にも気道、感覚器、発語など多様であり、基本的な日常生活のみならず心理社会的にも大きな役割を担っています。何らかの障害を生じてしまうと、その影響はとても大きいものとなります。しかし、多くの人の考える口の病気は、むし歯、歯周病、口内炎といったもので、「命に関わることはない」「ほっといても治る」「抜歯ぐらい」と思っている方が大半です。一方、われわれ歯科医師にとって、口腔の疾患は多種多様で、診断に悩むことも少なくありません。その治療は、テクニカルで高難度であり、狭くて複雑な口腔という中で、タービンをはじめたくさんの鋭利な器具や細かな器具を使って行われます。すなわち歯科治療そのものが「ハイリスク」であり、しかもその多くが後戻りのできないものです。

このように患者と医療者との間には、病気や治療に対して大きな「ギャップ」があるため、もし何らかの問題が生じてしまうと、過失の有る無しに関わらず大きなトラブルに発展しかねません。

トラブルを未然に防ぐには、解剖など基本的な知識と基本手技を身につけ、リスクを評価し対処することはもちろんですが、患者と医療者間の「ギャップを埋める」=「インフォームド・コンセント IC」が大切です。すなわち患者と情報を共有（説明と同意）し、記録しておくことが極めて重要です。しかしながら、歯科医療においてインフォームド・コンセントはまだまだ十分とはいえません。「歯科の常識」が「一般での非常識」であることもあります。万が一トラブルが生じたときは、速やかに対処し、適切に病診連携を図ることが大切です。

ネット社会の現在、根拠のない情報が氾濫しています。そのような情報に患者ばかりか医師も振り回されていることが多々あります。正確で信頼できる情報を入手し、知識をアップデートして標準治療を理解しておく必要があります。

これまで実際にわれわれが経験したトラブルケースを示しながら、その原因、対処、予防についてお話ししたいと思います。

お申込先 FAX: 092-473-7182 感染防止のため50名限定 (会員無料)

氏名:

医療機関名:

※講演会参加に際してのお願い

体調不良の場合は参加をご遠慮ください。会場入口にて手指消毒、講演会中のマスク着用をお願いします。座席は四方に間隔を空けた配置となります。新型コロナウイルス感染症の集団感染発生が疑われ、行政から要請があった場合は、参加者の個人情報行政に提供することをあらかじめご了承ください。